

Q 大人数の集団で話ができません

一人や二人の人とおしゃべりすることは平気なのですが、五人とか比較的多人数の輪の中に入ると口を開くことができず、固まってしまいます。転校を機に、こんな恥ずかしがり屋で引っ込み思案な自分を変えたいんです。

A

札幌学院大学人文学部教授

森 直久 (もり なおひさ)

あの一、前回も言ったようにここは人生相談コーナーではないのですけど……。大人数の輪に入ると口を開けない。それであなたは「恥ずかしがり屋で引っ込み思案」な性格だと思っているというわけですね。でもあなたが苦しんでいるのは、あくまでも潜在的な話し相手の人数です。もし性格の問題だとしたら、話し相手との関係の深浅を気にすると思います。性格的な理由も否定はできませんが、ひとまず、あなたの抱えている問題を別の角度から見てみたいと思います。

以前 53 号のこのコーナーで、サックス、シェグロフとジェファーソンの会話の順番取りルールの話をしました。会話には話者交代があります。話者交代が起きうるところを 54 号で移行適切場と言いました。そこでは、a) 話し手が次の話し手を指名してもよい、または、b) 話者が交代してもよい、あるいは c) 誰も話さなければ話し手は話し続けてよい、という規範に従うよう、私たちは動機づけられていたのです。さらに参加者の視線や姿勢が、会話の場への関与を表示するグッディンの話もしたと思います。それは、相手から視線をそらしたり、姿勢をずらしたりすると、発言の機会を放棄しているとみなされることがあるという話でした。

この二つの知見から考えると、あなたの問題はこういうことではないでしょうか。会話の参加者が増えるにつれ、順番取りは複雑になっていきます。現在の話し手の発言が移行適切場を迎えたとき、大人数のうち一人しか次の話者にはなれません。指名がなく、現在の話者の継続がなかった場合、あなたが口を開くチャン

スが生まれます。さて、あなたは何をしなければならないか。他の話し手の視線や姿勢に注意を向けつつ、かつ先行話者を妨害せず、他の参加者に先駆けて話し始めることですね。このタイミングの見極めは難しそうです。視線や姿勢に気を配らないと、発言がかぶってしまう。発言開始が早すぎれば、先行話者の発言を妨害してしまう。遅すぎると別の参加者に順番を取られてしまうかもしれない。あなたはこのタイミングの取り方がうまくなく、躊躇している間に別の人が話し始めてしまう。こうしてあなたは固まってしまう。性格というより認知的な問題です。ではどうしたらよいでしょうか。先行発言が移行適切場を迎えそうな時点から、視線や姿勢で発言への関与を他の参加者に表示していったらどうでしょう。身を乗り出すとか、ね。また、相づちととられるような「あー」とか「ふーん」といった類の発言を、移行適切場の少し前から始めてみてはどうでしょう。これだと先行発言を妨害しているとみなされる危険は少なく、それに続けて発言を行えば、あなたは会話の順番を獲得することができます。

もしこのような積極的な対応策をとるのが苦手だとすれば、それは性格的なものかもしれません。あなたには自分を変える意志があるのですから、あとは実行です。そんなに不安そうな顔をしないで。四つ葉のクローバーさんをお願いして、背中を押してもらいましょう。笑顔でなくなるとハッピーが逃げてしまいます。



Profile — 森 直久

札幌学院大学人文学部教授。専門は認知心理学、社会心理学。主な著書は、『心理学者、裁判と出会う：供述心理学のフィールド』（共著、北大路書房）など。